MSSA

一般社団法人 宮城県警備業協会 〒981-3105 仙台市泉区天神沢一丁目 4 番 11 号 ℡ 022-371-0310 FAX 022-773-6466 info@mssa.jp http;//www.mssa.jp



令和6年3月1日

宮城県警備業協会 会員の皆様へ

宮城県主催「宮城県飲酒運転根絶推進会議」の結果について(ご報告)

主催者を代表し、宮城県企画部地域交通政策課長が、昨年は飲酒運転による交通事故が前年比で増加している。平成20年1月から始まった対策が今年で17年目を迎え、地域、職域で根気強く推進していくことが重要である。とあいさつした。

その後、警察本部交通企画課交通事故総合分析室長が、飲酒運転をめぐる交通情勢について、

- 飲酒運転は、運転者は勿論のこと同乗者、飲食店も処罰されることとなるので 絶対に行わないこと。
- 小型モビリティと言われる電動キックボードや電動アシスト自転車のシェアリング事業が2月28日から県内でも始まったので、交通ルールを守って事故防止に努めること。
- 「飲酒運転交通事故の発生状況」を県警ホームページで確認して欲しいこと。 などと講話した。

その後、事務局の活動報告、石巻市の取組などの活動報告があり、会議は終了した。 【石巻市の活動報告】



宮城県の事故 一般社団法人宮城県警備業協会 専務理事 高橋 直嗣

自転車等走行中の注意

率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。



西運転を通事故の発生状況

令和6年1月末

発生状況

令和6年1月末現在の飲酒運転交通事故(一般原付以上の人身事故)は、前年と比較し 、発生件数は同数であるものの、負傷者数が増加しています。 また、死亡事故については発生はありません(前年比±0件±0人)。

				欧治理転り	(通手収の)	E 土	("in. th in :	中1月木建報旭)
ı	区	分	発生件数	死亡事故		負 傷 者 数		
ı		77	光生件数	件 数	死者数	重 傷	軽 傷	計
[本	年	2	0	0	0	3	3
[前	年	2	0	0	1	1	2
ı	増	数	0	0	0	-1	2	1
ı	減	222	0.0	-	ı	-100.0	200.0	50.0

2 市区町村別発生状況 (令和5年中)

市区町村別の発生状況は、発生地別では青葉区が8件で最も多く、居住地別でも青葉区が6件で最も多くなりました。

- 0	IT CAK 03	1,2	9 &	0700	
		発	生	地	
ī	市区町村名	件	数	前年比	構成率
	青葉区		8	4	17.8
仙	宮城野区		4	-1	8.9
台	若 林 区			-3	0.0
क्त	太白区		7	5	15.6
	泉 区		3	0	6.7
	石 巻 市		2	-1	4.4
	塩 竈 市		2	1	4.4
	気仙沼市		2	2	4.4
	白 石 屯		_	0	0.0
_	名 取 市	_	3	3	6.7
_	/ July 11/	_	1	-1	2.2
_		_	2	2	4.4 2.2
_	岩沼市登米市	_	1	0	2.2
		_	_	0	
	栗 原 市 東松島市	_		0	0.0
-	大 崎 市	_	2	2	4.4
	富谷市	_		-2	0.0
	蔵王町			-1	0.0
	七ヶ宿町			0	0.0
	大河原町		- 1	1	2.2
	村田町		_	-1	0.0
	柴田町		- 1	0	2.2
	川峰町			0	0.0
	丸森町			0	0.0
	亘 理 町		3	3	6.7
	山元町		1	1	2.2
	松島町			0	0.0
	七ヶ浜町			0	0.0
	利府町			0	0.0
	大 和 町			-1	0.0
	大郷町			0	0.0
	大衡村			0	0.0
	色麻町			-1	0.0
	加美町			0	0.0
_	涌谷町	_		-1	0.0
\vdash	美里町	\vdash		0	0.0
-	女川町 南三陸町	-	_	0	0.0
		_		0	2.2
-		-	45	12	
	21 -		45	12	100.0

市区町村名	件 数	前年比	構成率
青葉区	6	4	13.3
仙 宮城野区	4	-1	8.9
台 若林区		-3	0.0
市太白区	4	2	8.9
泉区	1	-5	2.2
石 巻 市	2	-1	4.4
塩 竈 市	1	0	2.2
気仙沼市	2	2	4.4
白石市	1	0	2.2
名 取 市	5	5	11.1
角田市	1	0	2.2
多賀城市		0	0.0
岩沼市	3	3	6.7
登 米 市	1	0	2.2
栗 原 市 東松島市		0	0.0
		0	0.0
	2	0	2.2
富谷市	1	0	2.2
七ヶ宿町		0	0.0
大河原町	1	1	2.2
村田町	_	-1	0.0
柴田町	1	1	2.2
川崎町		0	0.0
丸森町		0	0.0
百 理 町	3	2	6.7
山元町		0	0.0
松島町	1	1	2.2
七ヶ浜町		0	0.0
利府町		0	0.0
大 和 町	1	0	2.2
大 郷 町		0	0.0
大衡村	1	1	2.2
色麻町		0	0.0
加美町		-1	0.0
通谷町		-1	0.0
美 里 町		0	0.0
女川町		0	0.0
南三陸町		0	0.0
県 外 等	3	2	6.7
計	45	12	100.0

第1当事者居住地

発生推移 (基礎データ平成17年~令和5年) 飲酒運転事故の発生権移を見ると、発生件数、死者 数ともに平成19年までは大幅な減少傾向にありま したが、平成20年以降は減少率が鈍化し、ほぼ横ばい 一先生作数 で推移し、その後平成25年からは、発生件数100件 未満、死者数5人以下で推移しています。 また、平成30年以降減少傾向にあった発生件数で すが、令和5年は前年と比較して+12件となり、4 年ぶりに増加に転じました。 令和5年中) (1) 追突事故の発生が多い 故類型別発生状況(構成率)] が、飲酒運転以外 (3,988件中102件。2.6%) と比 較して高くなりました。 (2) 昼夜を問わず発生 時間別では、7時台が5件で最も多く、次いで 18時台が4件と多くなっており、昼夜別では、 昼18件、夜27件と昼夜を問わず発生しました。 【時間別 酒運転事故発生件数】 (3) 路線別では国道と市町村道での発生が多い 路線別では、国道が16件で最も多く、次い 市町村道が14件と多くなりました。 当事者種別 (第1当事者) では、普通乗用車 5割以上 (45件中23件。51.1%) を占めまし 飲食店での飲酒が多い 飲酒場所別では、「飲食店」が18件と最 も多く、次いで「自宅」が16件でした。 また、飲酒理由については、「付き合い」 が16件で最も多く、次いで「晩酌」が12件 製 塩,1件, 4代, 17.8% 服外.2年, 3.7% (5) 20歳代、60歳代の運転者が多い 第1当事者(飲酒運転者)の 65歳以上の高齢者は2人でした の年代別では、20歳代と60歳代 がいずれも10人で最多で、 年 代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80以上 人数 10 7 9 9 10 構成率 0.0 22.2 15.6 20.0 20.0 22.2 0.0 うち死亡事故 1 1 1 **飲酒運転事故は死亡事故率が高い**(基礎デ

宮城県警察本部交通企画課

死亡事故件数 死亡事故

令和4年4月1日 施行

- 運転前後の運転者の酒気帯びの有無を目視等で確認する
- ○確認内容を記録して、その記録を1年間保存する

施行

- ○運転前後の運転者の酒気帯びの有無をアルコール検知器で確認する
- ○アルヨニル検知器を常時有効に保持する

アルコールチェック義務化Q&A

Q1 運転者が運転する度に酒気帯びの有無を確認することが必要ですか?

- A1 安全運転管理者は、「運転しようとする運転者及び運転を終了した運転者」について酒気帯びの有無を確認することとされています。ここでいう「運転」とは、一連の業務としての運転をいいます。 酒気帯びの有無の確認は、必ずしも個々の運転の直前又は直後にその都度行わなければならないもの
- ではなく、運転を含む業務の開始前や出勤時及び終了後や退勤時に行うことで足ります。

Q2 直行直帰の場合にも安全運転管理者が対面で酒気帯びの有無を確認する必要がありますか?

- A2 酒気帯びの有無の確認の方法は対面が原則ですが、直行直帰の場合その他対面での確認が困難 な場合にはこれに準ずる適宜の方法で実施すればよく、例えば、運転者に携帯型アルコール検知器を携 は場合にはこれ、年り 30項目のク法 (天徳) れはよく、何えは、建転者に係ず空 バルコール検知器(行させるなど た上で、① カメラ、モニター等によって、安全運転管理者が運転者の顔色、応答の声の調子等とともに、

 - アルコール検知器による別定結果を確認する方法 ② 携帯電話、乗務無線その他の運転者と直接対話できる方法によって、安全運転管理者が運転 者の店客の声の側子等を確認するとともに、アルコール検知器による測定結果を報告させる方法 等の対面による確認できるような方法が含まれます。

Q3 使用すべきアルコール検知器の性能は決まっていますか?

- アルコール検知器については、呼気中のアルコールを検知し、その有無又はその濃度を警告音、警告
 - 対、数値等に切って減縮を有する機器であれば足りることとされています。 安全運転管理者は、アルコール検知器を常時有効に保持することとされていることからアルコール検知器をの製作者が定めた取扱説明書に基づき、適切に使用し、管理し、及び保守するとともに、定期的に故 障の有無を確認し、故障がないものを使用しなければなりません。

Q4 運転者が個人購入したアルコール検知器を安全運転管理者が使用してもよいのでしょうか?

A4 酒気帯びの有無の確認に使用するアルコール検知器は、基本的には、自動車の使用者が購入すべき ものであると考えられます。ただし、各事業所の個別の事情により、個人で購入したアルコール検知器を使 用する必要がある場合には、安全運転管理者において、当該アルコール検知器が正常に作動し、故障 がない状態であるかどうかの確認を定期的に行うなど、安全運転管理者が「常時有効に保持」するアル コール検知器と同等の管理が行われているものに限り、個人で購入したアルコール検知器を使用すること は差し支えありません。

出張により一時的に他の事業所で社用車を用いることになりますが、出張先の事業所において酒気帯び の有無の確認をしてもらうことはできますか?

A5 同一の自動車の使用者が他の自動車の使用の本拠において安全運転管理者を課任しており、当該 | 四一ツ目断車が使用の本拠となる事業所(以下)他の事業所]といいます。)において運転者が運転を開始 | 他の自動車の使用の本拠となる事業所(以下)他の事業所]といいます。)において運転者が運転を開始 し、又は終了する場合には、他の事業所の安全運転管理者の立会いの下、運転者に他の事業所の安全 運転管理者が有効に保持するアルコール検知器を使用させ、測定結果を電話その他の運転者と直接対 話できる方法で所属する事業所の安全運転管理者に報告させたときは、酒気帯びの有無の確認を行った

Q6 安全運転管理者以外の者が酒気帯びの有無の確認をすることは認められていますか?

A6 安全運転管理者の不在時など安全運転管理者による確認が困難である場合には、安全運転管理者 が、副安全運転管理者又は安全運転管理者の業務を補助する者(以下「補助者」といいます。)に、酒

が、副安全運転管理者又は安全運転管理者の長寿を棚料りの者、外ド1冊料用」といるように、一気帯びの有無の確認を行わせることは差し支えありません。 運転者に対する酒気帯びの有無の確認は、業務奏託であっても差し支えありませんが、例えば、運転者 が酒気を帯びていることを補助者が確認した場合には、安全運転管理者へ遠やかに報告し、必要な対応 等について指示を受けるか、安全運転管理者自めが運転者に対して運転中止の指示を行うなど、安全運 転を確保するために必要な対応が確実にとられることが必要となります。

Q7 酒気帯びの有無の確認をした場合に、どのような内容を記録すればよいですか?

以下の内容を記録し、及びその記録を1年間保存してください。

発生件数

62,058

飲酒運転事故

- 確認者名 運転者 運転者の業務に係る自動車の自動車登録番号又は識別できる記号、番号等 確認の日時
- *電船の口間 確認の方法(対面でない場合は具体的方法等) 酒気帯びの有無 指示事項
- (7)
- その他必要な事項



報告

アルコールチェック時の記載例 OR OB (D) 酒気帯7 車両番号 その他(備考) 確認者 確認方法 の有無 (有) 運転前 (対面)電話 有 宮城○○ 宮城 太郎 宮城 花子 行前点線と法令遵守 ((出勤時 9:00 運転後 対面 電話 1 有 宮城〇 宮城 太郎 宮城 花子 E分な休息による体調管 (#) (退勤時 17:00 運転前 対面・電話 有 有 (出勤時 運転後 쁨 対面・電話 有 (退動時 運転前 対面・ 有 (出勤時 運転後 対面・電話 有 有 (退勤時 無 運転前 対面・電話 有 有 出勤時 運転後 時分 対面・電話 有 (退勤時

* 上記の記載例については、一例となります。必要事項の記載があれば 事業所等において作成した様式などでも構いません。